

<b>2012年度 シラバス原簿</b>	No. 20120200035016 学部 工学部	執筆教員CD 0200035 開講 生命環境科学科
----------------------	------------------------------	------------------------------

<b>科目名</b> 英語名	環境地理学 Environmental Geography
-------------------	----------------------------------

<b>科目担当者</b>	矢沢 勇樹
--------------	-------

開講学期	時間数	単位	科目の区分	曜日時限	履修制限
3年5学期	2	2	指定・選択	火1・2	特になし

<b>目的</b>	地球の誕生, 生物の発生, そして高等な知能をもった人類の誕生により, 地理学の分野で理解することができる土地利用(地図)が表現される。土地利用は人間の意志のみによってその空間的広がりやなすのではなく, 自然条件によって大きく変わってくる。このため, 様々な自然条件に応じた土地利用が各所で形成されている。また, 土地利用の変化によって, 自然の姿が変わる場合もある。本講義では, 地形・地質・気候・水文・生物などの環境要素と土地利用の基本的な関係について, 具体的事例を挙げながら解説し, 地図を読み解く力を養うことを目的とする。
-----------	--

<b>注意事項・学習アドバイス</b>	毎回, 講義の最後に演習を行い, これを評価点とする。原則, 遅刻や講義中の私語は厳禁とする。
---------------------	---

<b>到達目標</b>	環境地理学では, 複雑な地球環境問題をより深く理解することことに焦点が置かれておらず, 地形・地質・気候・水文・生物などの環境要素と土地利用の基本的な関係を地図やデータ(歴史, 政治, 資源, 産業を含めた国勢)をもとに解析し, その地域で生じる問題の解決策を提案できる学生の育成を目指している。特に地図の読解, データ収集, そして表現力を養うことに目標が定められている。
-------------	---

<b>評価基準</b>	<p>点数配分 期末試験 30% 中間試験 0% 小テスト(14回) 50% 提出物(1回) 20% プレゼン(0回) 0%</p> <p>毎回の講義にて小テスト(演習課題)を行い, これを評価点とする。また, 講義終盤に本学が位置する房総半島に関する地理データについて整理してもらい, これをレポートとして提出する。期末には講義内で行った小テストの内容についての理解度を試験する。</p>
-------------	---

<b>関連科目</b>	地球環境化学, 地学実験および実習, 土壌環境科学
-------------	---------------------------

<b>教科書参考書</b>	教科書: 特になし。配布資料。参考書: 講義内にて参考書を紹介する
---------------	-----------------------------------

<b>科目アドバイザー</b>	矢沢 勇樹	各教員のオフィスアワーは教務ホームページで参照すること。訪問の際は, 事前にアポイントメントをとることが望ましい。
-----------------	-------	---

タイトル	講義内容	事前事後学習内容
<b>1週</b>	0. ガイダンス・環境地理学とは	<p>事前 1hr: シラバスの記載内容について必ず目を通す。 講義の目的・内容などについて説明する。</p> <p>事後 2hr: 本講義の目的・内容について十分に理解し, 履修の有無を再確認する。</p>
<b>2週</b>	1. 地理情報と地図	<p>事前 1hr: 日常生活で用いられている地図情報について列挙する。 地形や地質, 気候, さらに土地利用を整理したり, 理解するためには必ず地図が必要となる。本講義では, このような地理情報を数値化した地図の種類とその用途を幾つか紹介し, 表現技法を理解してもらう。</p> <p>事後 2hr: 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
<b>3週</b>	2. 地形図の基本事項(1)	<p>事前 1hr: 地形図の図法と縮尺について予習。 地形環境は, そこで生まれる自然環境や土地利用に重要となる。本項目については2週にわたり地形図の図法(表現法), 面積の比較, 断面図の書き方, ならびに勾配(傾斜角)の計算法について習得する。</p> <p>事後 2hr: 講義内で行った演習課題についての確認。</p>

タイトル		講義内容と事前事後学習内容
4週	3. 地形図の基本事項(2)	<p>事前 1hr 等高線と地図記号について予習。 地形環境は、そこで生まれる自然環境や土地利用に重要となる。本項目については2週にわたり地形図の図法(表現法)、面積の比較、断面図の書き方、ならびに勾配(傾斜角)の計算法について習得する。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
5週	4. 地形図と地質図との関係	<p>事前 1hr 地層の形成について予習。 地形図に示される等高線を読みとることで、その地域がどのように隆起、浸食しながら形成もしくは堆積したのか理解することができる。同時に雨水の流れ(分水界)、山地や盆地にみられる気候分布、そして土地利用との関係がみえてくる。本項では、表面的な地理情報である地形図と地下の地理情報である地質図との関係を理解する。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
6週	5. 読図作業(1) -山地の地形・自然と人間生活を読む	<p>事前 1hr 山地の地理情報について予習。 山地の地形・自然と人間生活を土地利用図から読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
7週	6. 読図作業(2) -扇状地・三角州の地形と土地利用・集落	<p>事前 1hr 扇状地・三角州の地理情報について予習。 扇状地・三角州の地形と土地利用・集落との関係を土地利用図から読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
8週	7. 読図作業(3) -侵食地形と集落との関係を読む	<p>事前 1hr 地形の一生と侵食の年輪について予習。 幼年期・壮年期・老年期の地形と集落との関係を土地利用図から読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
9週	8. 読図作業(4) -河岸段丘・海岸段丘を読む	<p>事前 1hr 河岸段丘と海岸段丘の地理情報について予習。 河岸段丘・海岸段丘の形成機構を水の流れと関連させ読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
10週	9. 読図作業(5) -カルスト地形・氷河地形・洪積台地を読む	<p>事前 1hr カルスト地形・氷河地形・洪積台地の地理情報について予習。 カルスト地形・氷河地形・洪積台地の形成機構を地図より読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
11週	10. 読図作業(6) -干潟・断層・地溝と土地利用	<p>事前 1hr 干潟・断層・地溝の地理情報について予習。 干潟・断層・地溝と土地利用との関係を地図より読みとる。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認</p>
12週	11. 数値化された地理情報の統計的処理	<p>事前 1hr 最小二乗法について予習。 地理情報は点と点との数値から線となり、それが面となり、さらに立体的な地形情報となる。本項では、点と点との地理情報をどのように平滑的に結ぶか。統計的解析手法により実際の地理環境に近似した地形図について学ぶ。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
13週	12. 房総半島の地形と土地利用を読む(レポート作成)	<p>事前 1hr 房総半島の地理情報を活用。 私たちの大学が位置する房総半島は、内湾と外海に囲まれ、高低差の小さな地形である。一方で、土地利用からみると農林・畜産・魚業が盛んであり、また、工業・観光地・交通網としても発達している。ここでは、これまでの講義の基本事項を再確認しながら、各自で設定した房総半島の土地利用や環境問題を考察するために地形図を用意し、解析する。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
14週	13. 房総半島の地形と土地利用を読む(レポート作成)	<p>事前 1hr 房総半島の地理情報を活用。 私たちの大学が位置する房総半島は、内湾と外海に囲まれ、高低差の小さな地形である。一方で、土地利用からみると農林・畜産・魚業が盛んであり、また、工業・観光地・交通網としても発達している。ここでは、これまでの講義の基本事項を再確認しながら、各自で設定した房総半島の土地利用や環境問題を考察するために地形図を用意し、解析する。</p> <p>事後 2hr 講義内で行った演習課題についての確認。</p>
15週	試験およびまとめ	<p>事前 2hr 講義で行った演習課題について復習。 講義内容について試験を行い、解説を行う。</p> <p>事後 1hr 試験内容について各自の講義ノートをもとに自己採点。</p>